

# 知財戦略業務における

## 生成 AI 活用の現状と課題

—— IP ランドスケープ・知財獲得活用戦略・知財投資戦略を中心に ——

Claude Opus 4.6 調査レポート

2026 年 4 月

## エグゼクティブサマリー

知財戦略業務への生成 AI 導入が急速に進んでいる。Clarivate の調査によれば IP 業務における AI 活用率は 2023 年の 57% から 2025 年には 85% へ急伸した<sup>[1]</sup>。NEC が先行技術調査時間を 93.5% 短縮し<sup>[2]</sup>、ソフトバンクグループ (SBG) が AI 支援で年間 1 万件超の特許出願を実現するなど<sup>[3]</sup>、日本企業でも劇的な変革が始まっている。一方で、Gemini 2.5 による特許検索の正答率が 0% という実験結果が示すとおり<sup>[4]</sup>、汎用 LLM のハルシネーション問題は深刻であり、専門ツールとの使い分けや品質保証体制の構築が喫緊の課題となっている。AI 特許・市場インテリジェンス市場は 2026 年の約 15.8 億ドルから 2034 年には 56.7 億ドル (CAGR 17.3%) へ拡大が見込まれ<sup>[5][6]</sup>、知財戦略の在り方そのものが根本的に変わりつつある。

## 1. IP ランドスケープ分析における生成 AI の進展

### 1.1 日本における IP ランドスケープの現状

IP ランドスケープ (IPL) は 2017 年以降日本で急速に注目を集め、2020 年 12 月に設立された IP ランドスケープ推進協議会は 2024 年時点で 85 社が参加する規模に成長した<sup>[7]</sup>。生成 AI の登場により、IPL の各プロセス——情報収集、データ分類、文脈理解、戦略提案——すべてにおいて AI 活用が進展している。

旭化成は IPL の先駆者として知られ、2024 年 4 月に経営戦略担当直下に「知財インテリジェンス室」を新設した<sup>[7][8]</sup>。M&A 判断、事業ポートフォリオ変革、新規事業創出に IPL を適用し、グローバルな IP 情報活動を展開している。味の素は「IP 戦略・人材育成・IPL」の三位一体戦略で、4,200 件超の特許と 5,600 件の商標を戦略的に活用する<sup>[9]</sup>。

### 1.2 生成 AI の IPL 業務への具体的適用

生成 AI の IPL 業務への具体的な適用方法として、ニーズエクスプローラ社が提唱する「発散と収束」アプローチが注目される<sup>[10]</sup>。まず生成 AI がテーマの洞察と企業強みデータを組み合わせ、候補領域を生成 (発散) し、次に特許・文献データで分析を検証・深化する (収束)。デロイトトーマツグループも機械学習によるビッグデータ分析で技術トレンドやキープレイヤー

ーを特定する IPL 分析コンサルティングを提供している<sup>[11]</sup>。

2025 年刊行の実務書『生成 AI による知財業務効率化と活用の手引き』（情報機構）では、三井化学、オムロン、トヨタテクニカルディベロップメントの専門家が、ChatGPT・Gemini・NotebookLM を用いた特許文書レビュー、発明課題・解決手段の抽出、パテントマップ生成の手法を解説している<sup>[12]</sup>。

グローバルでは、LexisNexis TechDiscovery が AI による即座のパテントランドスケープ構築を可能にし、R&D 担当者が深い専門知識なしでもグローバル特許データベースを検索・分析できる環境を整えた<sup>[13]</sup>。Perplexity Patents は 2025 年 10 月に「世界初の AI 特許リサーチエージェント」として登場し、自然言語での対話型特許検索を実現。「フィットネストラッカー」と入力すれば「アクティビティバンド」等も含めた意味的検索を行い、特許だけでなく学術論文やオープンソースコードも横断検索する<sup>[14]</sup>。

## 2. 知財獲得・活用戦略における生成 AI の革新的事例

### 2.1 出願戦略とポートフォリオ構築

生成 AI は特許出願の効率を桁違いに向上させている。NEC の知財 DX プログラムは、先行技術調査で 93.5%の時間短縮を達成した<sup>[2]</sup>。アンサンブルサーチ（ベクトル検索とキーワード検索の組み合わせ）にリランキングモデルを加えた高度な RAG 技術を用い、米国特許庁提出書類の自動生成、特許図面・フローチャートの自動生成（開発中）、標準必須特許検索、契約書レビュー（1,000 ページ超）にまで AI 活用を拡大している。2026 年 1 月にはこれらの IP DX サービスの外部提供を開始した<sup>[2]</sup>。

リーガルテック社の Tokkyo.Ai「生成 AI Plus」（ChatGPT-4o 実装）では、特許出願依頼書の作成時間を約 15 時間から 1~2 時間に短縮（約 90%削減）した事例が報告されている<sup>[15]</sup>。

最も劇的な事例はソフトバンクグループだ。孫正義会長が 2023 年に 1,008 件の特許を出願したと発表した後、2025 年 4 月 2~3 日だけで 3,500 件超の SBG 特許公開が公報に掲載された<sup>[16][17]</sup>。AI 関連出願総数は 1 万件を超え、長年のトップ出願人であるキヤノンやトヨタを凌駕する<sup>[3][18]</sup>。2025 年 4 月以降は 6,000 人超の発明者が出現し、「全社員発明者時代」の到来を示唆する<sup>[16]</sup>。

AI Samurai（2025年6月にトヨタテクニカルディベロップメントの完全子会社化）は、AIによる特許審査シミュレーション、約3分での明細書ドラフト生成、チャット形式での発明者との対話による発明価値抽出を実現する「AI Samurai ZERO」を提供する<sup>[19]</sup>。2025年12月には休眠特許発見サービス<sup>[21]</sup>、2025年6月には拒絶査定への補正案 AI 自動生成機能を追加した<sup>[20]</sup>。

## 2.2 活用戦略：ライセンスと標準必須特許

知財活用戦略においても生成 AI の貢献が広がっている。IPlytics によれば世界で 30 万件超の標準必須特許（SEP）が宣言されており、AI ベースの SEP 予測モデルが注目されている。244 名の業界専門家を対象としたウェビナー調査では、85%が AI ベースの特許必須性アルゴリズムが SEP 判断を支援できると回答した<sup>[22]</sup>。ScienceDirect に掲載された 2025 年の学術論文は、LLM が 5G 技術特許の標準必須性を評価でき、特許と技術標準の関連性を詳細に説明できることを実証した<sup>[23]</sup>。

ライセンス戦略では、Elevate Law が米国の産業用 HVAC 大手（約 2,000 特許ファミリー）に対し、AI プラットフォームでポートフォリオ全体の商業的潜在力をランキング、特許-製品オーバーラップマップを可視化し、隣接市場へのライセンス機会を特定した<sup>[24]</sup>。

## 2.3 知財・無形資産の投資・開示戦略

コーポレートガバナンス・コード（CGC）は 2021 年 6 月改訂で補充原則 3-1③（知財投資情報の開示）および 4-2②（取締役会による知財投資の監督）を追加した<sup>[25]</sup>。これを受け、2022 年 1 月に「知財・無形資産ガバナンスガイドライン Ver.1.0」、2023 年 3 月に「Ver.2.0」が公表された<sup>[26]</sup>。特許庁は 2024 年 6 月に『知財経営への招待～知財・無形資産の投資・活用ガイドブック～』を発行した<sup>[27]</sup>。AI 活用との接点としては、AI による IPL 分析がガバナンスガイドラインの「ストーリーテリング」要件を支援し、AI 搭載分析プラットフォームが投資家対話に必要な定量エビデンスの生成に活用されている。

# 3. 主要 AI 分析ツール・プラットフォームの機能と特徴

## 3.1 特許 AI 分析ツールの比較

ツール名	開発元	主要 AI 機能	データ規模	価格帯
PatSnap Eureka	シンガポール	独自 LLM 「Hiro」、AI エージェント群	20 億超データ	\$5K~\$500K/年
Questel Orbit	フランス	AI アシスタント 「Sophia」、SEP 分析	世界出願 99.7%	エンタープライズ
Clarivate Derwent	英国	AI Search (colBERT)、PatentStrength	6,700 万超要約	エンタープライズ
AI Samurai	日本/TTDC	審査シミュレーション、3 分明細書生成	日米中特許	非公開
Summaria	日本	AI 特許文書読解支援、要約・分類	4,500 万超特許	サブスクリプション
Amplified AI	米国	独自 NLP、意味的+ニューラル検索	1.4 億超特許	\$500/月~
IPRally	フィンランド	グラフニューラルネットワーク	1.2 億特許	エンタープライズ
Perplexity Patents	米国	エージェント型 AI 検索、論文横断	特許+論文+OSS	無料 β~\$20/月

(出典：各社公開情報<sup>[19][28][14]</sup>等より筆者作成)

### 3.2 汎用 LLM の知財戦略業務への適用

ChatGPT (GPT-4/o1/o3) は技術的な説明の明確化、複数のクレーム表現の生成、オフィスアクション対応の起草に強みを持つ。一方、§ 112 エラーや参照不整合などの特許コンプライアンス知識が欠如しており、「権威ある態度で誤情報を提示する」問題がある<sup>[29]</sup>。Claude (Anthropic) は 200K トークンのコンテキストウィンドウにより特許明細書全文を一度に取り込める点が最大の強みであり、長文書にわたる論理的一貫性の維持に優れる<sup>[29]</sup>。Gemini (Google) は Google Workspace との深い統合、マルチモーダル機能、コスト効率に強みを持ち、独立クレームの IPC 分類で Top1 精度 72.96%を達成した<sup>[31]</sup>。

IPKat ブログ (2026 年 2 月) は、基盤 LLM の性能向上によりサードパーティの特許 AI ツールが「基礎モデルに大きな価値を追加していない」と指摘し、特許弁理士は LLM を直接操作する高度なプロンプトエンジニアリングを習得すべきと主張している<sup>[30]</sup>。

### 3.3 AI エージェントの最前線

Manus AI (Monica/Butterfly Effect 社、シンガポール) は、複数の AI エージェントが協調するマルチエージェントシステムで、パテントランドスケープ分析や競合インテリジェンス

レポート作成を自律的に実行できる<sup>[32]</sup>。Genspark AI は 9 つの LLM と 80 以上のツールを組み合わせた Mixture-of-Agents アーキテクチャで、5~10 分での高速リサーチ合成を特徴とする<sup>[32]</sup>。

オムロンは 2025 年 11 月、AWS 上に「RD Buddy」として IP AI エージェントを構築した。Amazon Bedrock (Claude 3.5 Sonnet) と Amazon Titan Text Embeddings V2 を使用し、「自動運転用画像認識技術」のような自然言語クエリで非専門家でも特許検索・分析が可能になった<sup>[33]</sup>。

## 4. ハルシネーションから機密情報まで——構造的な課題

### 4.1 特許検索における精度・信頼性の致命的問題

生成 AI の最も深刻な課題はハルシネーションである。特許分野は「新規性」を扱う性質上、発明がモデルの学習データの分布外に位置するため、最も正確性が求められる内容でハルシネーションが発生しやすいという構造的矛盾を抱えている<sup>[34]</sup>。

具体例として、リーガルテック社の検証テストでは、Gemini 2.5 Flash/Pro に自動車ミリ波レーダーの特許検索を行わせたところ、正答率 0%——提示された特許番号、出願人、要約のすべてが不正確であった<sup>[4]</sup>。同じテストで特許専門 AI 「ChatTokkyo」は 100%の正確性を達成し、汎用 LLM と専門 AI の性能格差を如実に示した<sup>[4]</sup>。OpenAI の o3 モデルは PersonQA ベンチマークで 33%のハルシネーション率、o4-mini は 48%に達する<sup>[35]</sup>。

### 4.2 機密情報・営業秘密の保護

2023 年のサムスン事件では、従業員 3 名が ChatGPT に機密ソースコードと会議録音を入力し、同社は ChatGPT の全社的使用禁止に踏み切った。日本の不正競争防止法上、営業秘密は「秘密管理性」「有用性」「非公知性」の 3 要件を満たす必要があり、従業員が公開 AI ツールに機密情報を自由に入力すれば、秘密管理性の要件を充足しなくなり法的保護を喪失するリスクがある<sup>[36]</sup>。企業の対策としては、エンタープライズ AI (学習不使用保証付き) の採用、API ベースの非データ保存統合、プライベート AI 環境の構築が進められている。

### 4.3 品質保証と人材育成の壁

NEC は法的文書など「ハルシネーションが許容されない領域」にはルールベースプログラムを適用し、それ以外の領域では RAG（アンサンブルサーチ+リランキング）で精度を担保する二段構えのアプローチを採る<sup>[2]</sup>。日本の実務ガイドでは、AI が正しくクレームを理解しているか確認→クレーム比較表出力→引用文献内容の検証→新規性・進歩性評価の妥当性判断という 4 段階検証ワークフローが推奨されている<sup>[12]</sup>。

## 5. JPO を中心とした知財行政の AI 活用方針

### 5.1 特許庁 AI 技術活用アクションプラン

特許庁は 2022 年 5 月に「AI 技術活用アクションプラン」（FY2022～2028）を策定し、毎年改定している。2025 年度改定版（2025 年 6 月 25 日公表）では重要な転換が見られた。高度な先行技術検索が実装フェーズに移行し、新規項目として「特許審査業務への生成 AI 活用」と「特許行政業務への生成 AI 活用」が追加された<sup>[37]</sup>。AI 審査担当官は 13 名から 39 名へ拡充され、全審査部門に配置された<sup>[37][38]</sup>。

2024 年 3 月には AI 関連発明の審査事例が 10 件追加され、LLM・生成 AI に関する発明の進歩性、記載要件、特許適格性を示す計 25 事例が公開されている<sup>[38][39]</sup>。

### 5.2 主要国特許庁の AI 導入状況

USPTO は 2025 年 10 月に ASAP!パイロット（AI 自動先行技術検索）を開始し、3,200 件以上の出願を対象に人間審査前の AI プレスクリーニングを実施している<sup>[40][41]</sup>。2025 年 7 月には DesignVision（意匠検索 AI）を導入した<sup>[50]</sup>。EPO は ANSERA（概念ベース検索）、EP-AutoCla（自動特許分類）を運用するが、生成 AI ベースの法務質問対応ではハルシネーションが確認されナビゲーション補助としてのみ位置づけている<sup>[40]</sup>。WIPO は 2026 年 3 月に AI Infrastructure Interchange（AIII）を立ち上げた<sup>[42]</sup>。

### 5.3 知的財産推進計画 2025 と発明者適格性

2025 年 6 月 3 日決定の「知的財産推進計画 2025」は「IP トランスフォーメーション」を掲げ、2035 年までに WIPO グローバルイノベーション指数トップ 4（現在 13 位）、日経 225 企業の時価総額に占める無形資産割合を 50%超にする KPI を設定した<sup>[43][44]</sup>。発明者適格性につ

いては、AI の学習データ選定者・ファインチューニング実施者・プロンプト作成者が共同発明者として認められるかの審議が進められている<sup>[45]</sup>。2025 年 12 月には「生成 AI の適切な利用に向けた IP 保護・透明性に関するプリンシプル・コード」の案がパブリックコメントに付された<sup>[46]</sup>。

## 6. 知財戦略業務の未来を形作る 3 つの潮流

### 6.1 AI エージェントによるワークフロー自動化

GenAI/SUM サミット 2025 (2025 年 10 月) での業界コンセンサスは明確だ。近期 (1~2 年) で翻訳・先行技術調査・文書作成は AI が完了し、中期 (2~5 年) で明細書起草・拒絶対応・クリアランス調査が AI 主導 (人間監視付き) となり、長期では IP ランドスケープ分析と発明発掘が人間主導・AI 補助で残る<sup>[47]</sup>。トヨタテクニカルディベロップメントの加藤博明氏は「近い将来、翻訳と先行技術調査は AI が完全に代替する」と断言した<sup>[47]</sup>。

### 6.2 専門 AI と汎用 AI の戦略的使い分け

arXiv (2024 年) 掲載の研究では、現在の特許特化 LLM (PatentGPT-J など) はクレーム生成タスクで汎用 LLM (GPT-4、Claude) に大幅に劣ることが示された。学習データの限界、インストラクションチューニングの不足、コンテキスト長の制約が原因である<sup>[48]</sup>。推奨される使い分けは、リサーチ要約・ブレインストーミング・翻訳・社内メモには汎用 LLM+RAG、正式な明細書起草・データベース連携先行技術調査・法域別コンプライアンスには専門ツール、そして両者を組み合わせたハイブリッドアプローチが最も効果的である。

### 6.3 「検証できる AI 活用」の実現に向けて

知財戦略における生成 AI 活用の核心的課題は「検証のパラドックス」にある。AI エラーを最も的確に発見できる深い専門知識を持つ人材は、AI からの恩恵が最も小さく、AI の恩恵が最も大きい経験の浅い人材ほどハルシネーションを見逃しやすい<sup>[49]</sup>。この課題を克服するには、NEC が実践する「ハルシネーション許容度に応じた二段構え」や 4 段階検証ワークフローのような組織的な品質保証プロセスの制度化が不可欠である<sup>[2][12]</sup>。

## 結論

知財戦略業務における生成 AI 活用は、もはや先進的な試みではなく業務インフラへと変貌しつつある。AI 活用率 85%という数字は、導入の是非を議論する段階が終わったことを意味する<sup>[1]</sup>。NEC の 93.5%時間短縮<sup>[2]</sup>や SBG の 1 万件超出願<sup>[3]</sup>は、AI が知財業務の効率だけでなく戦略そのものを変える力を持つことを証明している。

しかし、汎用 LLM の特許検索正答率 0%という実験結果は、ツールの選択と検証プロセスの設計が成否を分けることを警告する<sup>[4]</sup>。発明者適格性の法的整理<sup>[45]</sup>、セキュリティ・機密性の担保、そして「検証できる人材」の育成——これらの課題への取り組みが、AI 時代の知財競争力を左右する。日本政府が掲げる GII トップ 4 という野心的目標<sup>[44]</sup>の達成には、技術導入のスピードだけでなく、知財ガバナンスの質的転換が求められている。

## 参考文献

- [1] Clarivate, "How AI adoption is reshaping IP practice," Clarivate Blog, 2025.  
<https://clarivate.com/intellectual-property/blog/how-ai-adoption-is-shaping-the-future-of-ip-practice-what-attorneys-need-to-know/>
- [2] NEC, "知財業務全般を生成 AI で効率化 NEC が進める知財 DX," NEC R&D Technologies, 2025.  
<https://jpn.nec.com/rd/technologies/202510/index.html>
- [3] 日経クロステック, "ソフトバンク G、1 万件超の AI 関連出願 その狙いと影響を探る," 2025.  
<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03093/060900004/>
- [4] リーガルテック株式会社, "Gemini は特許調査に使える？ ～特許 AI エージェントと徹底比較～," Note, 2025. [https://note.com/tokkyo\\_ai/n/ncca381958445](https://note.com/tokkyo_ai/n/ncca381958445)
- [5] Fortune Business Insights, "AI in Patent & Market Intelligence Market Size, Share [2034]," 2025.  
<https://www.fortunebusinessinsights.com/ai-in-patent-market-intelligence-market-114122>
- [6] SNS Insider, "AI in Patent & Market Intelligence Market Size, Share & Growth Report 2033," 2025.  
<https://www.snsinsider.com/reports/ai-in-patent-and-market-intelligence-9338>
- [7] Biz/Zine, "旭化成中村氏が語る、日本の IP ランドスケープの現在地——最新アンケートが示す「成果」と「課題」," 2024. <https://bizzine.jp/article/detail/10655>
- [8] 旭化成株式会社, "知的財産報告書 2024," 2024. [https://www.asahi-kasei.com/jp/r\\_and\\_d/intellectual\\_asset\\_report/pdf/ip\\_report2024.pdf](https://www.asahi-kasei.com/jp/r_and_d/intellectual_asset_report/pdf/ip_report2024.pdf)
- [9] Biz/Zine, "なぜ味の素グループは攻めの知財戦略を加速するのか——両利きの人材育成と三位一体の IP ランドスケープ," 2025. <https://bizzine.jp/article/detail/11578>
- [10] 株式会社ニーズエクスプローラ, "IP ランドスケープをつくる," 2024. <https://needs-explorer.co.jp/6257/>
- [11] デロイトトーマツグループ, "AI を活用した IP ランドスケープ分析," 2025.  
<https://www.deloitte.com/jp/ja/services/consulting/services/ai-ip-analytics.html>
- [12] 情報機構, "生成 AI による知財業務効率化と活用の手引き," 2025.  
<https://johokiko.co.jp/publishing/BC260101.php>
- [13] LexisNexis IP, "Build an Instant Patent Landscape With Gen AI," 2025.  
<https://www.lexisnexisip.com/resources/instant-patent-landscape/>
- [14] Perplexity AI, "Introducing Perplexity Patents: AI-Powered Patent Search for Everyone," 2025.  
<https://www.perplexity.ai/hub/blog/introducing-perplexity-patents>
- [15] PR TIMES/リーガルテック, "【知財生成 AI 活用例】特許出願依頼文の作成時間を AI で 90%近く削減！," 2025. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000211.000042056.html>
- [16] 弁理士法人オンダ国際特許事務所, "全社員発明者時代の到来？生成 AI がもたらす出願革命," 2025.  
[https://www.ondatechno.com/jp/topics/news/ip\\_topics/p7723/](https://www.ondatechno.com/jp/topics/news/ip_topics/p7723/)

- 
- [17] 日経クロステック, "ソフトバンク G の特許が 2 日で一挙に 3500 件超公開," 2025.  
<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03093/040200003/>
- [18] 楠浦崇央/Note, "ソフトバンクの AI 事業戦略と知財戦略 ( 3 ) ," 2025.  
<https://note.com/kusuura/n/n880aec4e22ec>
- [19] AI Samurai, "特許申請支援システムの「株式会社 AI Samurai」," 2025. <https://aisamurai.co.jp/>
- [20] 日経新聞, "トヨタ系の AI サムライ 特許文書の補正案、AI が数分で作成," 2025.  
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOTG110QZ0R10C25A6000000/>
- [21] 日経新聞, "トヨタ系の知財新興、価値ある休眠特許を AI で発掘," 2024.  
<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/news/24/02956/>
- [22] IAM, "AI may be the solution to skyrocketing numbers of SEP declarations," 2025. <https://www.iam-media.com/article/ai-may-be-the-solution-skyrocketing-numbers-of-sep-declarations>
- [23] ScienceDirect, "Assessing the standard-essentiality of 5G technology patents by means of generative artificial intelligence," 2025. <https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0172219025000304>
- [24] Elevate Law, "Case Study: AI-powered Patent Licensing Strategy for Leading Industrial HVAC Manufacturer," 2025. <https://elevate.law/case-studies/ai-powered-patent-licensing-strategy-for-leading-industrial-hvac-manufacturer/>
- [25] HR ガバナンス・リーダーズ, "CGC 改訂後の「知財・無形資産」情報開示 最新状況調査 ( その 2 ) ," 2024. <https://www.hrsl.jp/sus-opinion/sus-opinion-9161/>
- [26] 経団連タイムス, "知財・無形資産ガバナンスガイドライン Ver.2.0," 2024.  
[https://www.keidanren.or.jp/journal/times/2024/0215\\_09.html](https://www.keidanren.or.jp/journal/times/2024/0215_09.html)
- [27] 特許庁, "「知財経営への招待～知財・無形資産の投資・活用ガイドブック～」," 2024.  
<https://www.jpo.go.jp/support/example/chizai-mukei-toushi-katsuyou-guide/>
- [28] PatSnap, "PatSnap | The AI-Native Platform for Global Innovation," 2025. <https://www.patsnap.com/>
- [29] Patenttext, "ChatGPT vs Claude vs Gemini for patent drafting (2026)," 2026.  
<https://blog.patenttext.com/blog-posts/chatgpt-ai-patent-drafting-tool>
- [30] IPKat/Blogger, "Use of AI in the patent industry: Are you behind the wheel or waiting for the bus?," 2026.  
<https://ipkitten.blogspot.com/2026/02/use-of-ai-in-patent-industry-are-you.html>
- [31] CEUR-WS.org, "ChatGPT vs. Google Gemini: Assessing AI Frontiers for Patent Classification," 2024.  
<https://ceur-ws.org/Vol-3697/paper2.pdf>
- [32] Techpoint Africa, "I tested Manus vs GenSpark: which AI writing tool wins in 2025?," 2025.  
<https://techpoint.africa/guide/manus-vs-genspark/>
- [33] AWS/builders.flash, "知財業務を革新するオムロンの知財 AI エージェント実装事例," 2025.  
<https://aws.amazon.com/jp/builders-flash/202511/omron-intellectual-property-ai-agent/>
- [34] IPKat/Blogger, "Use of AI in the patent industry: The spectre of hallucination," 2025.
-

- <https://ipkitten.blogspot.com/2025/10/use-of-ai-in-patent-industry-spectre-of.html>
- [35] Techopedia, "48% Error Rate: AI Hallucinations Rise in 2025 Reasoning Systems," 2025.  
<https://www.techopedia.com/ai-hallucinations-rise>
- [36] PatentRevenue, "共生か陳腐化か：生成 AI 革命がもたらす知財業務の未来航路," 2025. <https://patent-revenue.iprich.jp/strategy/3021/>
- [37] 特許庁, "特許庁における AI 技術活用に向けたアクションプラン 令和 7 年度改定版," 2025.  
[https://www.jpo.go.jp/system/laws/sesaku/ai\\_action\\_plan/ai\\_action\\_plan-fy2025.html](https://www.jpo.go.jp/system/laws/sesaku/ai_action_plan/ai_action_plan-fy2025.html)
- [38] 日本弁理士会パテント誌, "AI 技術の進展をふまえた特許審査に関する取組の最新状況," Vol.77 No.9, 2024. <https://jpaa-patent.info/patent/viewPdf/4478>
- [39] Managing Intellectual Property, "Latest updates on JPO's examination guidelines on AI-related inventions," 2025. <https://www.managingip.com/article/2dpq33i12uao4731fb7y8/>
- [40] D Young & Co, "Use of AI tools at the UKIPO, EPO and USPTO," 2025.  
<https://www.dyoung.com/en/knowledgebank/articles/ai-tools-ukipo-epo-uspto>
- [41] USPTO, "Artificial Intelligence Search Automated Pilot Program," 2025.  
<https://www.uspto.gov/patents/initiatives/automated-search-pilot-program>
- [42] WIPO, "AI Infrastructure Interchange (AIII)," 2026. <https://www.wipo.int/meetings/en/2025/ai-infrastructure-interchange.html>
- [43] 内閣府, "知的財産推進計画 2025 を決定しました," 2025.  
[https://www.cao.go.jp/press/new\\_wave/20250826.html](https://www.cao.go.jp/press/new_wave/20250826.html)
- [44] 首相官邸, "知的財産推進計画 2025 ～IP トランスフォーメーション～," 2025.  
<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/chitekizaisan2025/pdf/suishinkeikaku.pdf>
- [45] ユアサハラ法律特許事務所, "知的財産推進計画 2025 と AI 技術の進展を踏まえた発明等の保護," 2025.  
<https://www.yuasa-hara.co.jp/lawinfo/5793/>
- [46] 首相官邸, "生成 AI の適切な利活用等に向けた知的財産の保護及び透明性に関するプリンシプル・コード (仮称) (案) パブコメ," 2025. [https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/ikenboshu\\_20251226.html](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/ikenboshu_20251226.html)
- [47] 日経 BizGate, "AI で変わる知財の現場 戦略レベルで再定義 生成 AI サミット (GenAI/SUM) 2025," 2025. <https://bizgate.nikkei.com/article/DGXZQOLM071DO007112025000000>
- [48] arXiv, "Can Large Language Models Generate High-quality Patent Claims?," 2024.  
<https://arxiv.org/html/2406.19465v1>
- [49] Baker Botts, "AI For Patent Drafting in 2025," 2025. <https://www.bakerbotts.com/thought-leadership/publications/2025/january/ai-for-patent-drafting-in-2025>
- [50] IPWatchdog, "Design Patent Search Tool is Latest AI Feature for Examiners to Address USPTO Backlog," 2025. <https://ipwatchdog.com/2025/07/17/design-patent-search-tool-latest-ai-feature-examiners-address-uspto-backlog/>